

標準委員会 第1回リスク専門部会議事録

1. 日 時 2008年12月2日（火） 14：30～18：10

2. 場 所 航空会館801会議室

3. 出席者（敬称略）

（出席委員） 平野（光）（部会長）、山口（副部会長）、成宮（幹事）、岡本、熊本、桐本、野中、平野（雅）、吉田（一）、倉本、瀬谷崎、町田、松岡、松本、梅澤、橋本、守屋、竹山、宮田（浩）、門谷、梶本、山下、佐々木、宮田（知）、吉田（智）（25名）

（代理出席委員）（0名）

（欠席委員） 越塚、本間、村松、関根、結城（5名）

（常時参加者）（0名）

（傍聴者） 今井（東電）、大家（関電）、河井（原技協）（3名）

（事務局） 岡村

4. 配付資料

RKTC1-1 標準委員会の活動状況

RKTC1-2 人事について（分科会）

RKTC1-3 リスク専門部会の活動方針（案）について

RKTC1-4-1 リスク体系化WG報告書（サマリー）

RKTC1-4-2 リスク体系化WG報告書

RKTC1-5-1 「PSA用パラメータ推定実施基準」（案）本文、附属書

RKTC1-5-2 「PSA用パラメータ推定実施基準」（案）解説

RKTC1-5-3 「PSA用パラメータ推定実施基準」（案）説明用PPT

RKTC1-6-1 停止時PSA分科会活動状況

RKTC1-6-2 リスク情報活用ガイドライン分科会の活動状況について

参考資料

RKTC1-参考1 リスク専門部会委員名簿

RKTC1-参考2 標準委員会及び専門部会の今後のスケジュール（案）

5. 議事内容

議事に先立ち、事務局より、委員30名中代理委員を含めて25名が出席しており、決議に必要な定足数（20名以上）を満足している旨報告された。

(1) 標準委員会の活動状況（RKTC1-1）

事務局より、標準委員会の体制、これまで制定した標準、規約類等について概略の説明を行った。

(2) 人事について (RKTC1-2)

①主査の選出，副主査，幹事の指名

無記名投票の結果，平野（光）委員22票，山口委員2票，無効票1票で，平野（光）委員が主査に選出された。平野（光）主査より，副主査として山口委員が指名され，主査と副主査の合議により成宮委員が幹事に指名された。

②分科会

・主査選任の承認

停止時P S A分科会

山口 彰（大阪大）

審議の結果、主査の選任について承認された。

・新委員の選任

リスク情報活用ガイドライン分科会

古作 泰雄（原子力安全・保安院）

内田 剛志（原子力安全基盤機構）

審議の結果、新委員の選任について承認された。

(3) 部会活動方針 (RKTC1-3)

成宮幹事より，資料RKTC1-3を用いて，部会の活動方針（案）について説明が行われ，審議の結果承認された。また，合わせて専門部会の下にリスク評価標準体系化戦略タスクの設置が提案され，審議の結果，専門部会の3役と山下委員，宮田委員，守屋委員，吉田委員の7名を委員として設置することが承認された。

主な質疑等

- ・タスクは，ロードマップを作成したら終わりか，それともその後も見直し等を行うために常設になるのか。
 - 後者と考えている。
- ・リスク体系化検討WGの報告書は広く知られているのか。
 - 標準委員会や発電炉専門部会でそれぞれ2～3回紹介しているが，ほんのさわり程度。ただし，意見等は反映してきているので，まずはこれで発行し，タスクでフォローしていく。
- ・レベル1，2，3 P S Aはまだ発行前であるが，地震P S Aは既に発行して1年半以上経つので，次回専門部会で改定要否について検討する。
- ・タスクのメンバーは大体決まっているのか。
 - 例えば，部会長，副部会長，幹事のほか，研究機関からはサイクル施設に関わっている吉田（一）委員，製造業からは守屋委員，事業者は宮田委員，関係官庁からは山下委員が良いのでは無いかと考えている。
 - テーマによって他の委員にも参加いただくことにして，まずはこのメンバーでスタートする。
- ・サイクル関係の標準も策定することになるが，策定方針については，サイクル専門部会とも調整の場を設けて欲しい。

(4) リスク体系化WG報告書（RKTC1-4-1, 2）

成宮幹事より、RKTC1-4-1を中心にリスク体系化WG報告書の紹介が行われた。

さらに、WG主査の山口副部長より、補足説明が行われた。

主な質疑は以下の通り。

- ・ 研究開発だけでなく、判断基準や技術基準の部分の標準への反映は、ロードマップ上のどこに表現されているのか。
 - 具体的な標準への落とし込みとして行われる。
- ・ 本報告書は提言であるが、関係機関への説明状況は。
 - 保安院には説明し、コメントを頂いたため、その反映も行っている。安全委員会事務局がオブザーバーで参加されていたが、委員会への説明は不要とのこと。
- ・ 表1で、「PSA品質ガイドライン」で要求する性能を明確にするよう提言しているが、あまり詳しい性能要求まで規制に決められるより学会で決めた方が良いのではないか。
 - PSA品質ガイドラインには、手段まで書いてある項目もある。
 - PSA品質ガイドラインへは標準からエッセンスをもっていくほうがよいのではないか。先に“性能”を決められても困るのではないか。
- ・ P3安全委員会への提言で、国民の理解を得ることとなっているが、これには学会の役割も大きいのではないか。
- ・ ロードマップは、報告書に記載したものをアップデートしていくわけではなく、個別に展開して新たなものを作成していくことになるかと考えている。

(5) 「PSA用パラメータ推定実施基準」（案）の中間報告（RKTC1-5-1～3）

桐本委員より、資料ATC1-5に基づきPSA用パラメータ推定実施基準（案）の中間報告が行われた。2月の標準委員会への中間報告を目標に、各委員は1月20日までにコメントを提出することとした。

主な質疑は以下の通り。

- ・ インパクトベクトルが重要な位置付けになると思うが、本文に定義できないか検討して欲しい。
- ・ 階層ベイズモデルの評価には、マルコフ連鎖モンテカルロ手法が重要と思うが、本文に書かれていない。
 - マルコフ連鎖モンテカルロ手法は、必須ではない。
- ・ 全体に、作業量が多く感じる。省力化する工夫が出来ないか。例えばデータがほとんど無いような場合には検証を省略するなど。
 - データが無い場合の省略は記載済み。
 - 全体的にそのような目で作成して欲しい。
- ・ 適用範囲に、パラメータ全体が見えるような形で書いた方がよい。また、パラメータの言葉が普通の使い方と違うので、きちんと定義すべき。また、理論的整合性のある手法の要件は再検討して欲しい。
- ・ スライドと本文の目次が整合していない。

- 時間故障率のレビューは、分科会場でしっかりやるべき。
 - 原技協の有識者会議のデータを引用する予定。
 - 原技協のデータは公開されるのか。
 - 公開が予定されている。
- レベル1 PSA実施基準、停止時PSAの実施基準でもパラメータ作成について記載している。本標準も含め3標準で実施基準を定めることになるが問題ないか。
 - 停止時PSAは、作り方は示していない。
 - レベル1 PSAは、本文には定義の式のみ。
 - パラメータの分科会は、レベル1のPSAから派生したもの。ベイズは、本分科会で検討したものであり、将来フィードバックすべきと考えている。
 - レベル1 PSAで本標準を呼び込む形が良いのではないか。

(6) 分科会活動報告

(a) 停止時PSA分科会 (RKTC1-6-1)

今井幹事より、RKTC1-6-1に沿って活動状況並びに次回専門部会に最終報告をしたいとの説明が行われた。

(b) リスク活用ガイドライン分科会 (RKTC1-6-2)

平野主査より、RKTC1-6-2に沿って活動状況並びに次回専門部会に中間報告をしたいとの説明が行われた。

(7) 次回専門部会日程について

次回専門部会の日程は、別途調整することとした。

以上